全校で取り組む食農教育

～ ふるさとの産業を身近に感じよう ～

教科・領域　生活科・総合的な学習　　下関市立内日小学校全学年

キャリア教育の観点

この取組は、今から６年前よりＪＡ内日支所とのコラボレーション企画事業として始まりました。地域の主な産業である農業について、子どもたちに農産物を作る職業として学習させるだけでなく、作った農産物を加工・販売したり、みんなで料理して食べたりという、これからの地域産業の後継者として育てる学習でもあります。また、食べ物の栄養バランスを考えた食し方や食品の安全性など「食育」という面からも意義のある活動です。具体的なねらいは、次の３つです。

① ＪＡや地域の方の協力を得ることで、ふるさとの主幹産業のことを知らせるとともに、みんなと協力しながら働くことの大切さを感じ取らせる。

② 米・野菜を育てること（先を見据えて、計画的に進めないと失敗する）を通して、作物を育てることの素晴らしさや農業のよさを考える機会とする。

③ 米・野菜の育て方をＪＡの方に指導していただくことで、気候や気温の変化や害虫対策や自然災害への備えなど、これから起こりうるであろう事態にどう対応していくかという様々な対処方法を知るとともに、物事を冷静に判断する力をつけられるようにする。

【人間関係形成・社会形成能力】【課題対応能力】【キャリアプランニング能力】

活動のきっかけ

「地域の産業”農業”を体験させる」というのは、もちろん地域の強い願いでもあった。農業は職業であり、人が生きていくために絶対に必要とされる産業で、農業体験学習はキャリア教育としての側面をもち得る。農業体験学習を契機として子どもたちが将来の職業展望に思いをはせ、結果的に農業や関連の職種を志す、あるいは農業高校や大学の農学部への進学を希望するようになることも十分に期待することができる。

幸いにも本校の近くにある「ＪＡ下関内日支所」の方から、今から６年前に「食農教育活動の推進」ということで、内日小学校にぜひ協力してほしいという依頼があった。学校側も地域の方とのふれあいの機会がもて、地域の主幹産業である農業を体験させることは大変意義あることで、ぜひＪＡ下関内日支所の協力を得ながらこの職業体験活動を推進していこうと取組を始めた。

まずは子どもたちの興味を引くような活動から始めようと、初年度は「苺作り」に取り組むことにした。もちろん全校での取組であるが、中心となって活動するのは総合的な学習の時間の年間計画にも位置づけるため中学年（３・４年生）ということにした。

事前準備

初年度以降は、年度始めの４月に３・４年生の子どもたち自身がその年の農業体験に取り組んでみたいものをＪＡのアドバイスをいただきながら、その都度決めていくとい

う方法を取っていくことにした。やはり、大人がこれをやると決めてしまっては子どもたちの学習意欲も削がれるし、大人のための活動になってしまうので、自分たちで決めて（理想だけでは難しいのでアドバイスはするようにしている。）活動を進めることで、より責任感をもって取り組めるようになったのではないかと思う。活動の流れは、校長がＪＡの内日支所長さんや農業指導員さんと大まかな日程を決め、詳細の活動についてはその時の３・４年生の担任がその都度打合せを行いながら進めている。

これまでの経過を紹介すると、２０年度「苺」２１年度「冬野菜（大根、キャベツ、白菜、ブロッコリー）」２２年度「大豆・枝豆、冬野菜（白菜、ブロッコリー）」２３、２４年度「稲作（うるち米）」２５年度「稲作（もち米）」となっている。今年は収穫がまだなので資料がないため、２４年度の実践を紹介することにする。

田植え

６月１９日（火）に田植えを実施した。学校から徒歩で２分程度にある水田をお借りして、内日小学校児童と内日幼稚園の園児と保護者、ＪＡ内日支所の方々や地域の方々で田植えを行った。この時の苗は、事前に３・４年の児童が種籾を植え育てたものを使用した。ロープを張り、横一列に並んで目印にそろえながら手で苗を植えていった。この時には、地域の方にそばについていただき植え方のコツを伝授していただきながら、植え進めていった。始めは田んぼの泥に足を取られ歩くことさえできず、戸惑っていた子どもたちも徐々に要領を覚え、スムーズに田植えができるようになった。農村地域とはいえ全てが農家ではないため、生まれて初めての経験だった子どももおり、田植えの難しさとともに楽しさも味わうことができたようである。

稲の世話

水の管理や農薬散布、追肥等の作業は子どもたちでは無理なため、発育状態を確認していただきながら、状況に応じてＪＡの方々に対応をお任せした。刈入れまでは、子どもたちは定期的に稲の成長観察を行い、その時に草抜きをすることを中心にして活動している。毎回ではないが、指導員さんの都合がつく時には、米作りに大切なポイントややってはいけないことなどのお話を聞かせていただき、米作りに関する学習も進めていった。夏場は、雑草の伸びも大きく少ない人数ではあるが頑張って草抜きを行った。子どもたちは、たくさん取れた雑草を見て「田んぼがきれいになってよかったね。」「たくさんお米が取れるといいね。」と稲刈りを楽しみにしている様子であった。

稲刈り

１０月１５日（月）に稲刈りを行った。稲刈りも田植えと同様に内日幼稚園・内日小学校の全園児全児童参加のもとに、ＪＡの方々や地域の方々とともに実施した。刈取り

用の鎌の使い方や刈り取った後の稲の始末の仕方などを丁寧に教えてもらい、初めは悪戦苦闘していた子どもたちも慣れるに従ってサクサクと刈り取りを進め、あっという間に刈り取りが終わった。前年は刈り取った稲を、竹を組んだ干し台にかけて乾燥させる工程を行ったが、今回は刈り取りの時期が遅くなったことや天候の様子から、刈り取った稲をすぐにコンバインにかけて脱穀し袋に詰めていった。その後、学校内で天気の良い日にブルーシートを広げて、３・４年生が交替で当番を決め天日乾燥させた。十分に乾燥させた後は、再び袋につめてＪＡに運び、籾摺り作業を行っていただいた。これも機械作業なので主に見学が中心であったが、子どもたちで機械の中に籾を投入する作業を担当した。機械の中から玄米と籾がらに分けられて出てくる様子やさらにくず米と食べられるお米に選別される様子を見学し感動していた。

いただく・地域の方とのふれあい

１２月６日（木）に、収穫したお米を使ってカレーライス作りを行った。この時は、３・４年生が中心になってカレーライス作りを行い、米作りでお世話になったＪＡ下関内日支所関係の方々やご協力いただいた地域の方々を招いて、全園児全児童が一緒にカレーライスを食べた。１００食を越える量となり、３・４年生にとっては今まで経験のない量のカレーライス作りだったようで、ジャガイモやニンジンの皮むきや玉ねぎを切るのに苦労していた。朝早くから頑張ったおかげで、思っていたよりも短時間で仕上げることができた。会食は、場所の関係で２グループに分かれて行った。配膳は、高学年の子どもたちも手伝いながら行った。みんなが、「おいしい。」と言って食べてくれたことがとてもうれしかったようで、「また、作ってみたい。」「家でも作ってみる。」「農家の仕事がやってみたい。」という声も聞かれた。

まとめ

この農業体験学習は、地域の様子や特色を知る上でも大変意味ある活動になっている。地域の特色を知ることで、郷土愛も深めることができ、ひいては子どもたち自身が農業の良さに気付き、後継者や新たに農業に取組んでみようと志す子どもも出てくるのではないかと考えられる。昨今、農業後継者が減少し、日本の農業の未来はあまり明るい状況とは言えない。このような「農業体験活動」を進めていくことで、農業への関心が広がりと高まりを見せ、本気で農業を志す子どもを発掘し育てていくことにつながるとも考えられる。簡単なことではないが、この活動がその契機となれば幸いである。

家庭が農家の子どももそうでない子どもも作物を育てることの大変さ（期間・天候・害虫や雑草等）はもちろんのこと収穫への喜びや自分たちで作ったものを自ら食べることの喜びも味わうことができている。そんなことから、少ない人数でも協力し合うことの大切さや、一生懸命に世話をした野菜や米は、しっかりと実り、期待に応えてくれることにも気付かせてくれている。これからの内日地域の産業を守り、地域を盛り上げていくことのできる人材を育てていくことの一助として、これからもこの活動を継続していきたい。